

青森県立郷土館整備検討会議
(第 3 回)

【配布資料一覧】

資料 番号	資料名
1	第 3 回出席者名簿
2	第 3 回会議資料

青森県教育委員会

青森県立郷土館整備検討会議第3回出席者名簿

	氏 名	役 職
博物館	工藤 清泰	青森県立郷土館協議会 議長
	澁谷 悠子	高岡の森弘前藩歴史館 学芸員
	葉山 茂	国立大学法人弘前大学 人文社会科学部 准教授
	半田 昌之	公益財団法人日本博物館協会 専務理事
日本文化 地方文化	川守田 礼子	学校法人八戸工業大学 感性デザイン学部 教授
観光・国際	高坂 幹	公立大学法人青森公立大学 理事長
社会教育	西川 智香子	特定非営利活動法人コミュニサー あおもり 理事長
デジタル アート	佐々木 遊	asobis 代表
報道機関 メディア	小山田 文泰	青森放送株式会社 役員待遇報道局長
まちづくり	竹中 恵理	青森県青年国際交流機構 会長
-	遠藤 章子	一般社団法人青森県手をつなぐ 育成会
-	奈良岡 隆樹	元県立五所川原農林高校 教頭

(敬称略、順不同)

青森県立郷土館整備検討会議 第 3 回会議資料

青森県教育庁文化財保護課

令和 7 年 7 月 2 5 日

1. これまでの検討状況（これからの時代に求められる県立博物館について）

第1回会議（令和7年5月26日）

- **県立郷土館のめざす姿**
 - ・ ふるさとをつなぎ未来をつくるミュージアム（これまでの博物館のイメージを破る）

主な意見

- 箱から機能へ、社会に開くことが検討の一步
- 県全域の文化を網羅しているのは郷土館だけのため、広く県民が資料等活用できるよう検討
- この季節にはこの収蔵品の展示ができると提示してほしい
- 博物館の魅力を遊びや楽しみの面からこどもたちに伝えていく仕組みづくりが重要
- 総合博物館だからこそできるという視点が大事
- 博物館同士のつながりの強化やスキルの共有化に向けて中核となる博物館が必要

第2回会議（令和7年6月23日）

- **県立郷土館の4つの役割**
 - ・ 収集・保存、展示、調査研究、教育普及

主な意見を踏まえ、めざす姿の実現に向け、郷土館の役割を整理

主な意見

- 4つの役割を有機的につなげることが大事
- コンセプトの議論が必要
- 4つの役割の中に青森らしさを詰め込む議論が必要
- 障害者の方も楽しめる建物、展示となる工夫が大事
- どの役割に重点を置くのか、優先順位を付けることが必要

第3回会議（令和7年7月25日）

- **県立郷土館のコンセプト**

1. これまでの検討状況（新たな県立博物館の整備場所候補地について）

第1回会議（令和7年5月26日）

主な意見

○ 整備場所候補地の基本的な考え方

- ・洪水、土砂災害、津波等の災害リスクが低い場所
- ・“県民”が日常的に行きやすい場所
- ・“県外からの観光客”が訪れやすい場所

- 地域一体の観光資源化
- 県内全域（津軽、南部等）からのアクセス
- 総合博物館として他博物館との連携を考慮
- 整備される市の考え方が重要
（市部に協力の意向があるかどうか確認）

意向調査の対象整理

第2回会議（令和7年6月23日）

主な意見

○ 整備場所候補地の意向調査

- ・青森市、弘前市、八戸市に調査依頼

- 青森市、弘前市、八戸市に対して意向調査を実施

意向調査の実施

第4回会議以降

○ 意向調査の状況報告

2. 他館の特徴的な展示

スライドにより説明

3. 新しい県立郷土館のコンセプト

めざす姿

ふるさとをつなぎ未来をつくるミュージアム

見る・知る・学ぶ「静」と、
体感する・活動する・発信する「動」により、
ふるさとの自然・歴史・考古・民俗などの宝物を守り、特色や
価値・魅力を未来へ伝える。

3. 新しい県立郷土館のコンセプト

○ 見る・知る・学ぶ 「静」

青森県の宝物の特色や価値を見やすく、分かりやすく提供

○ 体感する・活動する・発信する 「動」

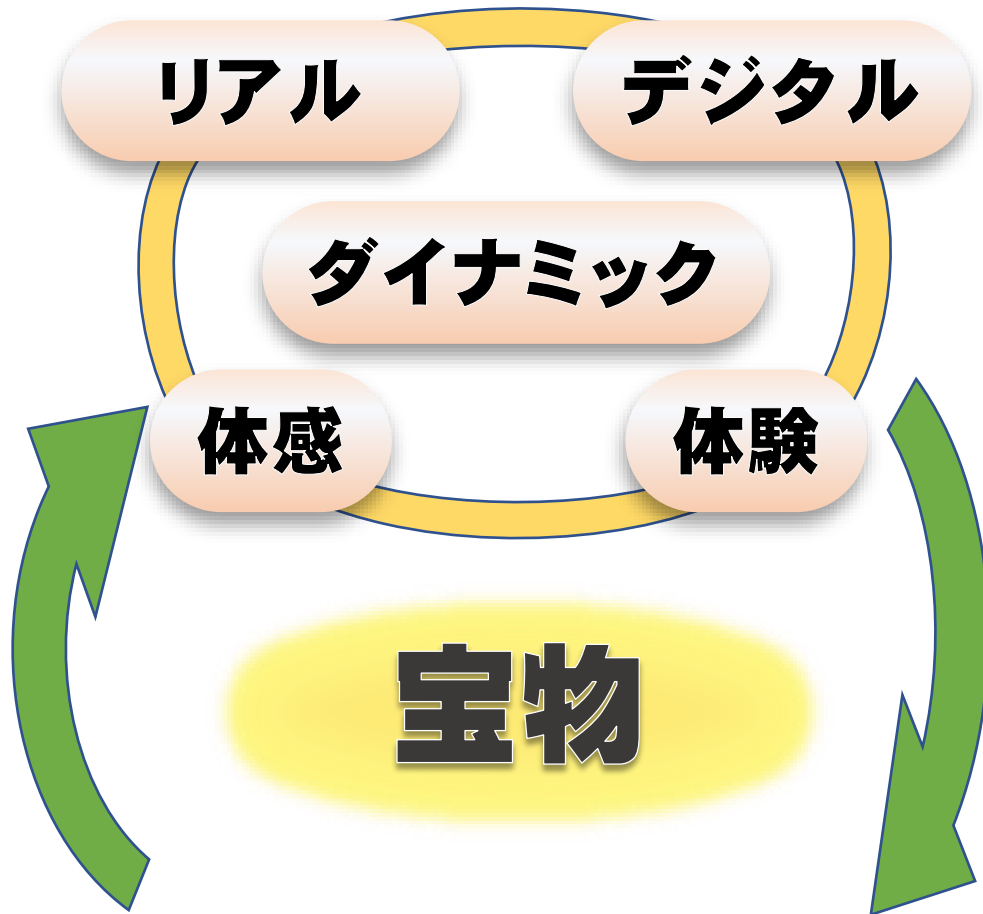
青森県の宝物を五感で捉え、様々な世代、人々と広く共有

○ 守る・伝える

青森県の宝物を守り、調査・研究成果を様々な機会を捉え公開

3. 新しい県立郷土館のコンセプト

展示・教育普及



- ・ 子どもから大人まで、楽しみながら青森の価値を理解し、誇りに思える。
- ・ 家族や友達同士、グループで体験・体感したくなる。
- ・ みんなが青森県の魅力を伝えたいくなる。
- ・ インバウンドの方も楽しめる。

- ・ 宝物を積極的に収集し、適正に保存する。
- ・ 青森県の過去の歩みと現在の姿を調査・研究する。

4. 県立郷土館の役割（展示）

変化に富む四季と青森がもつ世界・日本で認められた祭り、
大自然の恵み等を展示・発信

○リアルとデジタルを融合することで、現地にいるような
ライブ感・没入感を体感・体験できるダイナミックな展示

	春	夏	秋	冬
展示例	重要無形民俗文化財 八戸のえんぶりの烏帽子	重要無形民俗文化財 青森ねぶたの面（名人佐藤伝蔵作）	近代のリンゴ栽培の 道具	重要有形民俗文化財 津軽・南部のさしこ着物

4. 県立郷土館の役割（教育普及）

青森の自然・文化の特色や価値・魅力を伝え、郷土への愛と誇りを育む教育普及

○学校、他の機関、地域等と連携し、みんなで取り組む教育普及

1 出前授業の充実

- ・各学校からの要望で実施する出前授業に加えて、地域に焦点を当てた特別出前授業を実施する。

2 移動博物館の充実

- ・博物館等以外の施設や団体からの要望に応じ、その地域にゆかりのある資料を持参し、展示や学芸員によるギャラリートーク、ワークショップ等を行う。

4. 県立郷土館の役割（教育普及）

3 講師派遣、各種ワークショップ講座の充実

- ・学芸員が各機関や団体の要望に応じ、知りたいテーマについて分かりやすく紹介する講座の講師を務める。
- ・体験活動やものづくり等のワークショップを多彩なプログラムで実施する。

4 わくわくルーム（仮称）の充実

- ・幼児や児童等が個別に体験や学習メニューを選択し、触って遊んで体感しながら学ぶ「わくわくルーム（仮称）」を設置する。

4. 県立郷土館の役割（収集・保存）

先人の創意と工夫を知り、守り、受け継ぐ資料収集・保存

1 ふるさとの自然と歴史から生まれた宝物の収集

- ・青森県の宝物とすべき資料を積極的に収集する。

2 適切な保存環境の整備

- ・収集した資料を適正に保存できる収蔵施設を整備するとともに、日常的な管理を徹底する。

3 宝物の散逸を防ぐためのネットワークの充実

- ・共有された県内の重要資料の保護に必要な助言・協力を関係機関と連携して行う。

4. 県立郷土館の役割（調査・研究）

青森の過去の歩みと現在の姿を調査・研究し、その成果を多くの人々とわかち合うことで、青森の新しい未来を切り拓く

1 他機関と連携した調査研究の充実

- ・県内外の各大学や研究機関の研究者等と共同調査・研究を実施する。

2 研究成果の発信

- ・成果をまとめた論文や報告書を作成し、関係機関に頒布するとともにホームページで公開する。また、多様な広報媒体を活用し、国内外に発信する。

3 人材養成に係る研修の充実

- ・国や各研究機関が実施する研修に学芸員を派遣するとともに、研修内容を館内の学芸員と共有する。
- ・市町村博物館の学芸員に対する研修会を開催し、県内学芸員の専門知識・スキルの向上や共有化を図る。